

## イースター（復活祭）の感謝

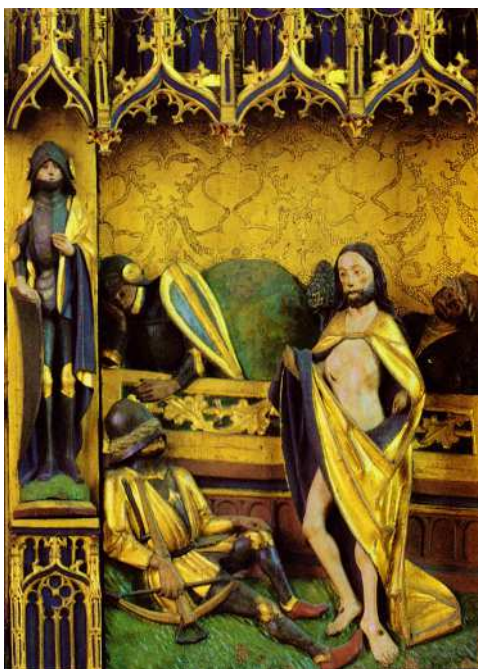
2015年4月5日(日)にイースターを迎えました。まだ風の冷たさも感じるのですが、野の花がいたるところで、咲き始め、小鳥たちが高く舞い、さえずり、一斉に春の喜びを伝えています。命を喜び、生きる幸いに輝いているようです。イースターを共に祝っているようです。



今年もドイツの友人のイネスさんが、「イースターを祝して」というカードと共に、メッセージを送ってくれました。いつも私たち家族と、私たちの教会の皆さんに祝福をお祈りして下さるのです。彼女に心から感謝しています。

このカードは「空の墓」の前に立つ天使が、マグダラのマリヤたちに「なぜ、生きておられる方を死者の中に捜すのか。あの方は、ここにはおられない。復活なさったのだ。まだガリラヤにおられたころ、お話しになったことを思い出しなさい。」(ルカ24:5)とされている様子を示しています。イスラエル旅行で「園の墓」を見学した時のことが思い出されます。

イネスさんは教会の礼拝堂に、たくさんのチューリップ、水仙、レンギョウの花の枝を飾って、イエス様の復活をお祝いするそうです。お花が大好きなイネスさんはきっと見事に活けられるでしょう。日本では花台の上に花を飾りますが、彼女の送ってくれる写真を見ると、いつも花瓶は床に置いてあります。それが自然の姿なのでしょうね。彼女の手紙には震撼させられたドイツの航空機事故についても触れて、非常に悲しんでいます。信じられないような事故に、自分が麻痺してしまったような苦しみを覚えると書いています。犠牲者を悼み、ご家族のために祈っておられます。彼女は薬剤師ですから、副操縦士の病気についてもかなり知識をお持ちでしょう。どのように対処すべきでしょうか。



もう一通のドイツからのカードはヴィンデ牧師からのものです。この絵はヴィンデ牧師が通っておられるエアファルトにある Reglerkirche 教会の祭壇に掲げられてる 6×6m以上の絵の一部だそうで、イエス様の復活の部分です。

この教会は 12 世紀からの歴史を持ち、ロマネスクの会堂です。16 世紀の宗教改革によってルター派になりました。祭壇を飾っている絵は彫刻と絵画の両方の技法で、無名の作家によって作られているようですが、1460 年頃の後期ゴシック美術の傑作の一つと言われています。会堂の修復や歴史のある調度品の保存がよくなされているのでしょう。レント（受難節）の時は祭壇の絵の扉は殆ど閉じられているそうです。先日伺った本郷のカトリック教会でも、覆いがかけられていました。眠りについていていた全てのものが、一度にイースターにイエス様と共によみがえりを果たすことを象徴しているのでしょうか。

ヴィンデ牧師は奥様が施設に入られたため、お一人で暮らしておられます。牧師は土曜日を私どもを覚えて祈る日と定めておられます。遠く離れた、異国の私どものために、今も生きて働いておられるイエス様と、共に歩もうと、いつも祈りに覚えて下さる友が与えられていることは、なんという感謝でしょう。